

ヤングオフィシャルキャンプ2007報告書

田中 智也

この度、8月10日～12日に埼玉県で行われた25歳以下の若手審判を対象としたヤングオフィシャルキャンプ(YOC)に参加してまいりました。簡単ではありますが、以下に3日間の活動内容を報告させていただきます。

【実技講習】

- 試合形式 : 10分-2分-10分のハーフゲーム(1Qおよび4Q扱い)
担当講師 : 吉田 利治氏、水原 規恵氏、山崎 人志氏
割り当て : ①8/11(土)9:30(上尾スポーツ研修センター)
伊奈学○大宮商 [白木 怜美氏(千葉)ー田中 智也(京都)]
②8/11(土)12:50(上尾スポーツ研修センター)
小山西○伊奈学 [田中 智也(京都)ー竹田 雄介氏(富山)]
③8/12(日)10:20(上尾スポーツ研修センター)
川口北ー上尾南 [田中 智也(京都)ー花井 綾氏(三重)]

感想と反省

YOCに参加するにあたり、私は大きく2つの目標を立てていました。1つは普段どおりの自分をさらけ出すこと、もう1つは今の自分の課題である「プレイを予測してより良い位置に早く移動する」ことに積極的にチャレンジすることです。普段どおりの自分を表現することで、今の自分に足りない動きや無駄な動きを講師から指摘していただき、新たな課題を見出すことができました。また、このYOCでは判定の内容よりも判定する位置取りを中心に指導されたため、目標に挙げた課題克服のための多くのヒントを得ることができました。その中でも、今回重点的に指導していただいたリードの位置取り、特に右側へ動くタイミングや右側におけるプレイの見方は、私を含むほとんどの講習生ができていなかった動きであり、非常に勉強になりました。

この3日間で、全国の若手レフリーのゲームを観ることができたことも大きな収穫でした。多くの講習生を観て最も感じたことは、関東圏の女性レフリーの身体能力の高さです。関東の女性レフリーは男性にも引けをとらない走力を有している方が多く、中には男性よりも高い走力だと感じる方もいました。これは、これらのレフリーが男子のゲームを含むどんなゲームであっても自分がレフリーするのだという意識の表れであり、普段からそのような高いモチベーションでトレーニングをしている結果ではないかと思います。この姿には、私自身非常に刺激され、目標設定の重要性を実感しました。

【講義】

2日間における講義の内容を記載します。

(1日目)

①堀内秀紀氏「バスケットボールの歴史と近況」

バスケットと世界情勢について

世界のバスケットに関わるときに、その国の歴史的背景や情勢を知っておくことは重要である。例えばチャイニーズタイペイについて、現在中華民国では台湾として独立するかどうかの国民投票を行おうとしており、それが中国政府をかなり刺激している状況である。国際オリンピック委員会は中華民国を「チャイニーズタイペイ」という名称を義務付けている。このことを知らずに、「台湾」という呼称を用いることは国際問題にもなりかねない。もし、うっかり「台」まで言いかけたら、「タイペイ」と略すなどの対処が有効である。

②小永吉陽子氏「報道メディアが総括する男子アジア選手権 ～遠すぎた北京への道～」

バスケットに関わるものにとって一番重要なこと

- ・ゲームを観ること（できれば生観戦）

小永吉氏がアジア選手権を実際に観戦、取材して感じたこと

- ・今回のアジア選手権で日本代表が史上最低の8位であった原因
→ 強化の継承ができなかったこと

昨年度までジェリコ・パブリセヴィッチ氏が強化してきたディフェンス力が今回の日本代表にはなかった。日本はヘッドコーチが変わると、それまでやってきたことが継承されない。（常に1からのスタート。）他のアジアのチームは飛躍的に成長している。それは、各国が長期的計画でチームを編成していたり、ヨーロッパで経験を積んだコーチを投入することでスタイルの異なるバスケットをしているからである。それらのチームに勝つためには、ヘッドコーチが変わるたびに方針を変えるのではなく、長期的展望のもとに明確な計画を立て、強化を継承していく必要がある。

③萩原美樹子氏「3つのお願い」

荒れるゲームとは

- ・判定基準がベンチに伝わらない
→ 1ピリオドで示す（WリーグやJBLは選手が早い段階で基準をはかる）

国際ゲームについて

- ・国（ヨーロッパ、アメリカ、アジア）によって判定が全然違う
[例]ヨーロッパでは3秒はほとんど鳴らない（アジアでは鳴る）がトラベリングは鳴る
アメリカやヨーロッパではボールを持ったものが強いという感覚

なんとなく好感の持てる審判に

- ・背筋が伸びているなど見栄えが良い
- ・表情が豊か
- ・アクション俳優はダメ
- ・選手に対して愛を感じる（須黒氏のように）

(2日目)

①平野彰夫氏「ルール・マニュアルについて」

ディフェンスのシリンダーについて

- ・動いているときにシリンダーはない(リーガルガーディングポジションを占めているときのみ)
- ・リーガルガーディングポジションとは両足を床に着けて、相手に向かっているときのこと
- ・ただし、オフェンスに対して平行または後ろに動いているときはシリンダーが保たれる
→ DVD で実際のケースについて説明があり、非常にわかりやすかったです。

ルールブックについて

- ・ルールブックは辞書ではない
→ 記載してある内容を全て把握しておく必要がある

②佐々木潤氏「審判活動における語学力の重要性について」

日本の国際審判員について

- ・国際試合 1 試合に最低 7 カ国の人が関わる。(レフリーや T.O. を含む)
→ 英語が必須

アジアに国際審判員は 298 人いるが、その中で日本人は No. 1 と言われている。それは、審判の技術はもちろんであるが、英語によるコミュニケーション能力の高さが評価されている。日本人の国際審判員は積極的に英語でコミュニケーションすることで、自分の居場所を確保している。

英語力を身に付けるためには

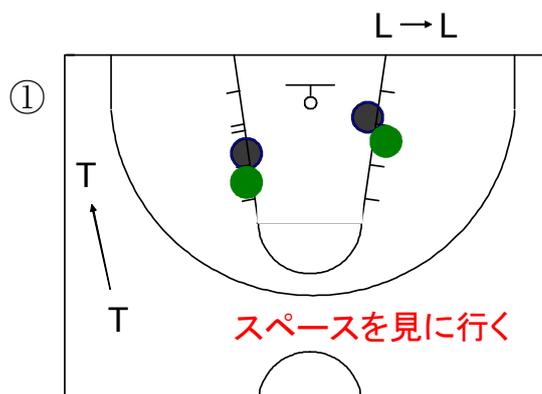
- ・自分自身が本気で英語を覚えようとする
- ・英語の学習を継続する
- ・間違いを恐れない
→ perfect English ではなく broken English でよい

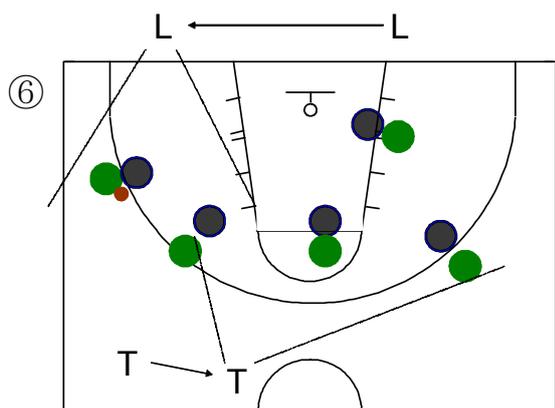
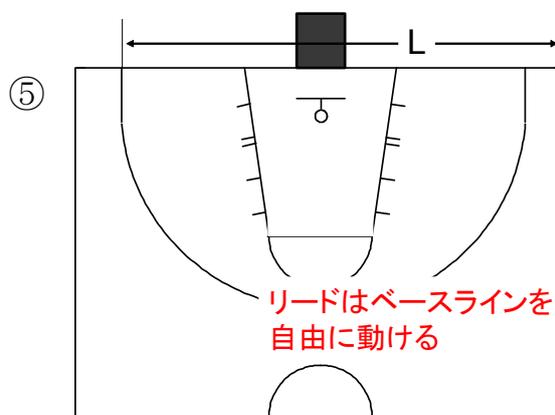
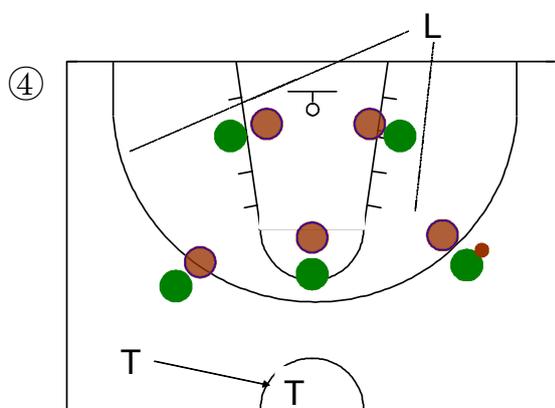
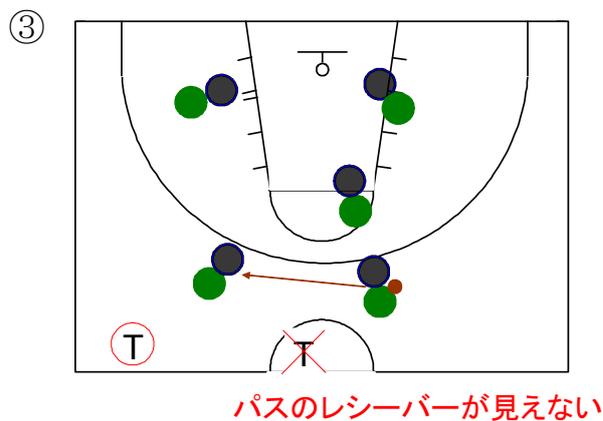
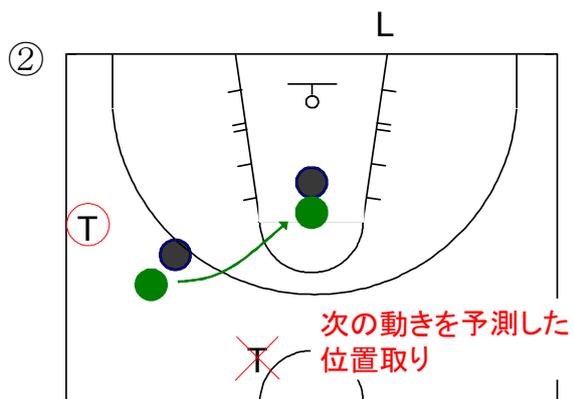
③ZAMOJSKI Jakub 氏「レフェリングに関するレクチャー ～ユーロリーグにおける審判活動～」

- ・良い審判 = 良い判定をする → 見やすい位置にいる → メカニクが大切
- ・審判が動く → 必ず意味がある

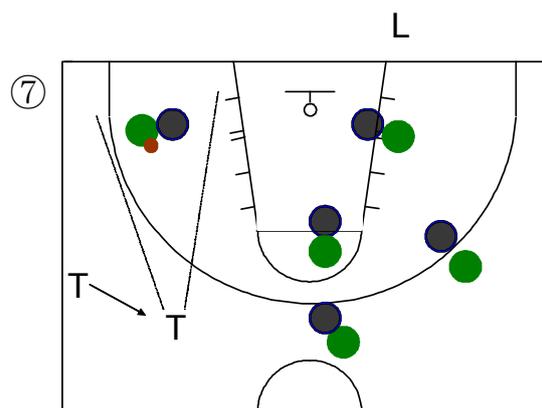
位置取りのケーススタディ

- オフェンス
- ディフェンス



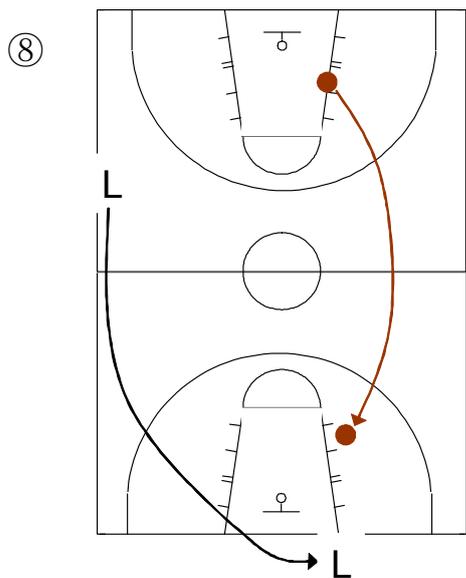


6番のエリアにボールがあるときは
リードは見に行ったほうがよい

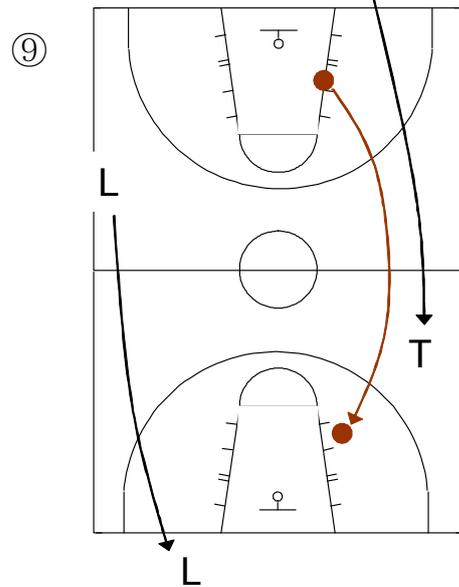


リードが来ない場合はトレイルが
フォローする

今回のYOCでは⑥、⑦の動きを重点的に指導していただきました。



**速攻には遅れない！
立ち止まってみる**



**もしリードが間に合わなかったら
トレイルがフォローする**

相手審判との協力

- ・ 24 秒タイマー
- ・ 各ピリオド終了間際のショット
- ・ アウト・オブ・バウンズ
- ・ 3 ポイントショット
 - これらはプレゲームカンファレンスで話し合っておく
- ・ スローイン時
 - 相手審判、T.O.を確認（アイコンタクト）

ジャンプボール

- ・ 素早くトスアップする
- ・ 普段から完璧にトスアップする練習をする
- ・ トスアップ後、少し待ってから動く
- ・ ポゼッションアローの確認

ブロック or チャージ

- ・ ディフェンスの動きに注目
 - リーガルガーディングポジションを占めているかどうか
 - ① リーガルガーディングポジションを先に占めたか？
 - ② 横または後ろへ動いたか？
 - ③ トルソーで受けたか？

【総括】

このYOCを通して、改めて基本の大切さを実感しました。単に基本が大切というだけでなく、なぜ基本が大切なのかを学び、レフリーにおける1つ1つの動作や振舞いの意味を深く考えることができました。この基本事項はどんな審判にとっても必要なことであり、それはオリンピックやユーロリーグであっても変わらないということ。世界レベルの試合を担当する審判は、そのような基礎事項が徹底しているということを感じました。

また、全国の同年代の若手審判と仲間になれたことは、私にとって大きな財産となりました。高いモチベーションの全国の仲間と話し、触れ合うことで、今まで曖昧であった全国、および世界への意識が具体的なものになり、上級審判になりたいと強く思うようになりました。今回学んだ多くのことを生かして、早く次のレベルへステップアップしていきたいと思います。

最後になりましたが、このような素晴らしい機会を与えてくださった京都バスケットボール協会審判部の方々に深く感謝いたします。これからもご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。